

2025年3月期
決算説明資料

2025年6月6日
神田通信機株式会社

(証券コード:1992)

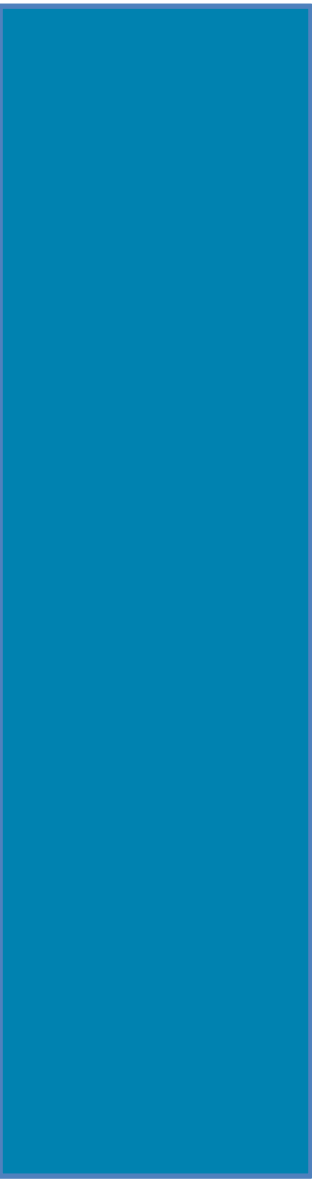
目次

1. 2025年3月期連結決算の概要

- ① 連結業績の概要
- ② セグメント別業績の概要
- ③ 要因分析
- ④ 連結貸借対照表の概要
- ⑤ 連結キャッシュフロー計算書の概要

2. 企業価値向上に向けた取組み

- ① 組織風土の改善
- ② 中期計画のテーマ
- ③ 成長への戦略(目標達成への方針)
- ④ 前期の振り返りと今期の取組み
- ⑤ 今期決算の見通し
- ⑥ 配当について



1. 2025年3月期 連結決算の概要

① 連結業績の概要



- 売上は、子会社日神電子において鉄道系の近代工事等の大型案件が終了したため3億円以上減収となったが、主として本社情報通信事業部門がその落ち込みを補ったことから全体としては横ばい(前期比100.4%)となった
- 利益面では、照明制御事業部門の収益性向上により粗利額が改善したが、労務費や教育研修費等に投資を行ったことから、減益(前期比79.2%)となった

(単位:百万円)

	2024年3月期			2025年3月期			前期比
	上半期金額	下半期金額	通期金額	上半期金額	下半期金額	通期金額	
売上高	2,822	4,330	7,152	3,231	3,948	7,179	100.4%
売上原価	2,023	2,947	4,970	2,223	2,736	4,959	99.8%
売上総利益	798	1,384	2,182	1,008	1,212	2,220	101.7%
売上総利益率	28.3%	31.9%	30.5%	31.2%	30.7%	30.9%	0.4%
販売費及び一般管理費	686	774	1,460	670	924	1,594	109.2%
営業利益	112	609	721	338	287	625	86.7%
営業利益率	4.0%	14.1%	10.1%	10.5%	7.3%	8.7%	△1.4%
経常利益	156	648	804	382	330	712	88.5%
税金等調整前当期純利益	156	648	804	400	214	614	76.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	96	449	545	282	149	431	79.2%
当期純利益率	3.4%	10.4%	7.6%	8.7%	3.8%	6.0%	△1.6%

※記載金額の表示単位未満の端数につきましては、切り捨てて表示しております

② セグメント別業績の概要

- 情報通信事業・・・売上高は前年並み。労務費、教育投資等の将来に向けた出費が嵩んだことから収益性が低下した
- 照明制御事業・・・労務費、教育投資等の増加があったものの、利益確保を見据えた受注への取り組みを継続してきた成果が表れたことや、業務(施工)の効率化に努めたことにより収益性が向上した

(単位:百万円)

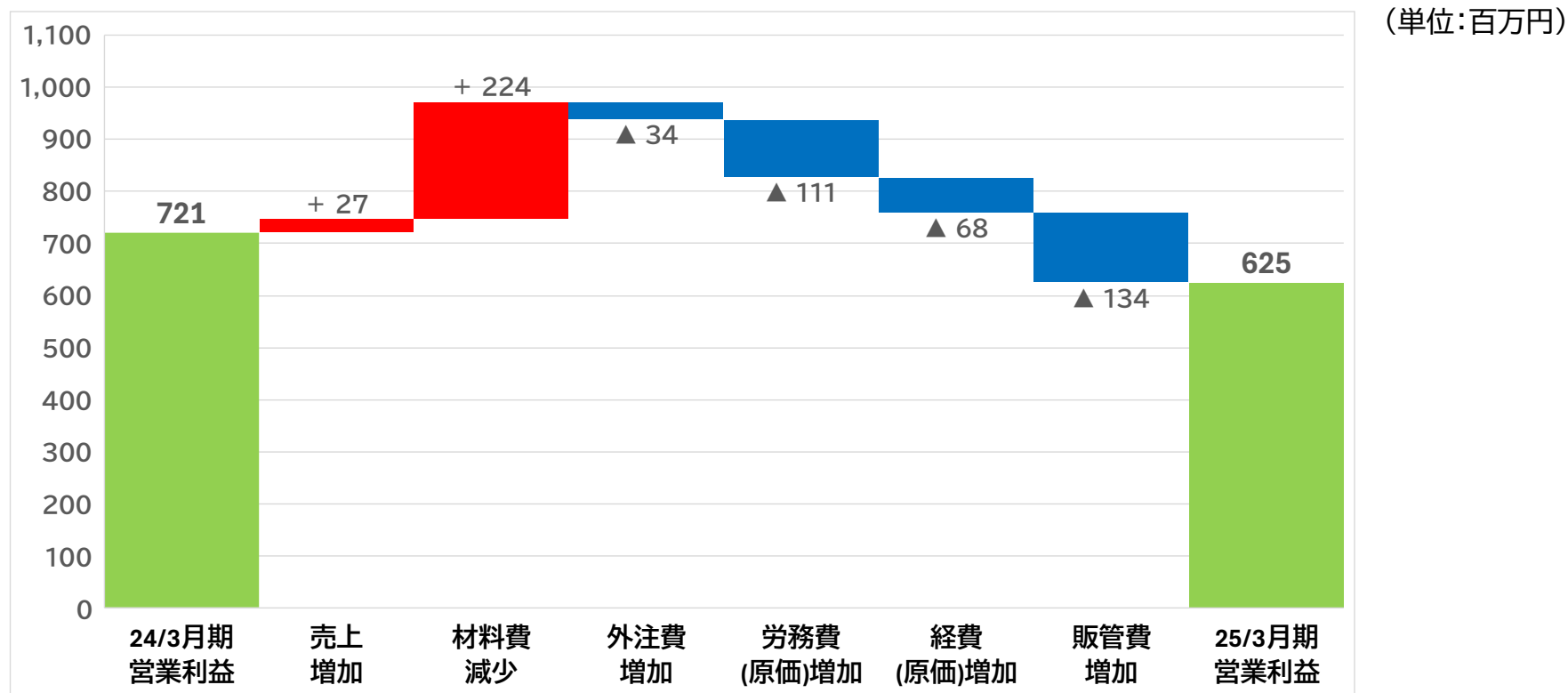
		2024年3月期			2025年3月期			前期比
		上半期金額	下半期金額	通期金額	上半期金額	下半期金額	通期金額	
情報通信	売上高	2,510	3,876	6,386	2,719	3,632	6,351	99.5%
	売上総利益	725	1,220	1,945	765	1,110	1,875	96.4%
	営業利益	94	513	607	179	267	446	73.5%
	営業利益率	3.7%	13.2%	9.5%	6.6%	7.4%	7.0%	△2.5%
照明制御	売上高	281	423	704	479	285	764	108.6%
	売上総利益	54	144	198	223	89	312	157.1%
	営業利益	0	75	75	138	8	146	193.8%
	営業利益率	0.0%	17.7%	10.7%	28.8%	2.8%	19.1%	8.4%
不動産	売上高	30	31	61	32	31	63	103.3%
	売上総利益	17	21	38	19	13	32	84.8%
	営業利益	17	21	38	19	13	32	84.8%
	営業利益率	56.7%	67.7%	62.3%	59.4%	41.9%	50.8%	△11.5%
合計	売上高	2,822	4,330	7,152	3,231	3,948	7,179	100.4%
	売上総利益	798	1,384	2,182	1,008	1,212	2,220	101.7%
	営業利益	112	609	721	338	287	625	86.7%

※記載金額の表示単位未満の端数につきましては、切り捨てて表示しております

③ 要因分析

■ 連結営業利益の変動分析(ウォーターフォールチャート)

1. 本体情報通信事業部門で売上高が増加した一方、子会社日神電子の売上高が減少した結果、連結売上高は横ばいとなった。
2. 前年並みの売上高となったが、労務費の増加や教育費用・本社移転費用等の事業投資(費用)の増加により連結営業利益は前年同期比95百万円減少の625百万円となった。



④ 連結貸借対照表の概要

- 4Qの売上が減少したことにより、売上債権(△3.6億円)及び仕入債務(△4.2億円)が、減少した。
現金預金は1.3億円の減少となった。

(単位:百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	前期増減
流動資産	5,792	5,313	△478
（現金預金）	2,895	2,761	△133
（受取手形・完成工事未収入金等）	2,589	2,225	△363
（未成工事支出金・仕掛品）	134	121	△13
固定資産	3,670	4,171	501
有形固定資産	1,528	1,589	61
無形固定資産	36	32	△3
投資その他の資産	2,106	2,549	443
資産合計	9,463	9,485	22
流動負債	2,602	2,174	△427
（支払手形・工事未払金等）	1,386	959	△427
固定負債	1,091	1,195	103
負債合計	3,693	3,370	△323
資本金	1,310	1,310	－
資本剰余金	1,111	1,124	13
利益剰余金	2,912	3,189	277
自己株式	-245	-435	△190
株主資本	5,089	5,189	99
その他包括利益累計額	679	926	246
純資産合計	5,769	6,115	346
負債純資産合計	9,463	9,485	22

※記載金額の表示単位未満の端数につきましては、切り捨てて表示しております

⑤ 連結キャッシュフロー計算書の概要

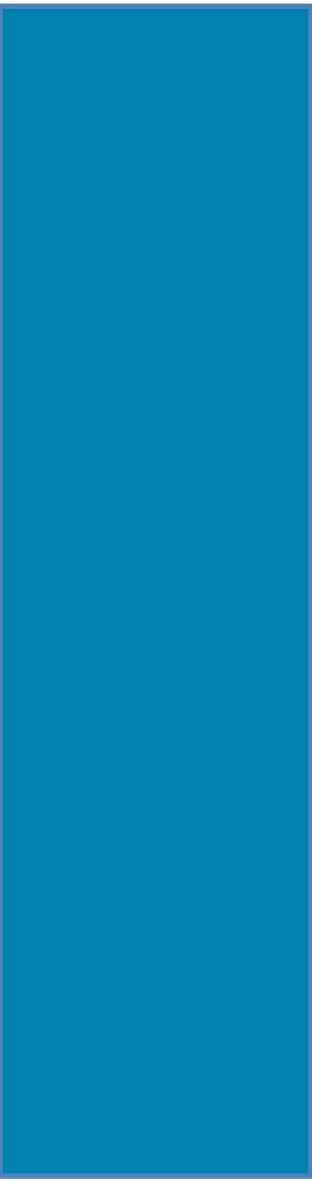


- 営業活動によるキャッシュフローが4.7億円となったものの、本社移転に関連する支出など投資活動によるキャッシュフローが△0.8億円、配当金の増加及び自己株取得など財務活動によるキャッシュフローが△4.2億円となったことから、現金及び現金同等物は0.3億円の減少となった。

(単位:百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	前期増減
営業活動によるキャッシュフロー	497	471	△25
投資活動によるキャッシュフロー	△20	△80	△60
財務活動によるキャッシュフロー	△297	△424	△126
(主な内訳)			
配当金の支払額	△141	△152	△11
自己株式の取得による支出	△76	△199	△123
現金及び現金同等の増減額	179	△33	△212
現金及び現金同等物の期首残高	2,354	2,533	179
現金及び現金同等物の期末残高	2,533	2,500	△33

※記載金額の表示単位未満の端数につきましては、切り捨てて表示しております



2. 企業価値向上に向けた取組み

① 組織風土の改善

【当社の抱える問題】

<組織>

- ・部署ごと独立した動きが多く、共有化が機能していない
- ・環境変化に対して柔軟な対応が出来ない

<ビジョン>

- ・現状では目指すべき未来がイメージしにくい

<風土>

- ・ゼロからの挑戦やチャレンジ意識を高める仕組みが不十分
- ・働きがい・帰属意識が低下傾向

<オフィス>

- ・旧来型のオフィスで、社員の活気に繋がっていない

会社の組織風土の改善が必要

会社の再構築

1. 事業部間の情報共有とチーム化
2. 「ありたい姿」の策定
(理念の見直しと方向性の明確化)
3. エンゲージメントの向上
(従業員満足度の改善)
4. オフィス空間の革新
(新社屋の活用)

② 中期計画のテーマ

旧来型ビジネスからの事業構造を転換する

～土台作りの2年目(Change&Challenge80th)

安定収益事業の拡大

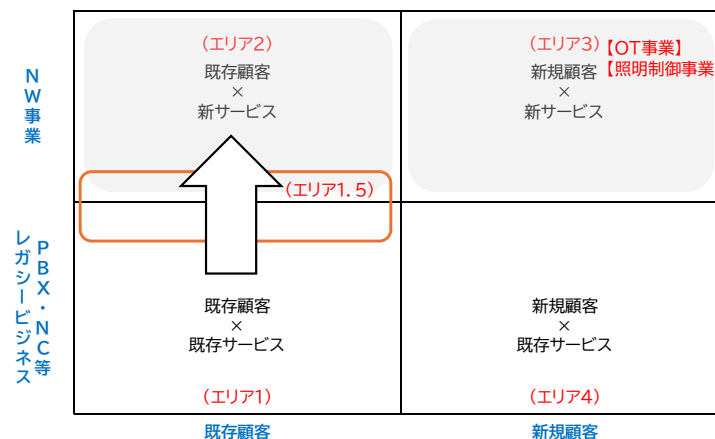
中期計画の柱:「安定」が見込める利用料ビジネスの拡大

安定収益が増加することで、事業の安定性を高める施策を実施中

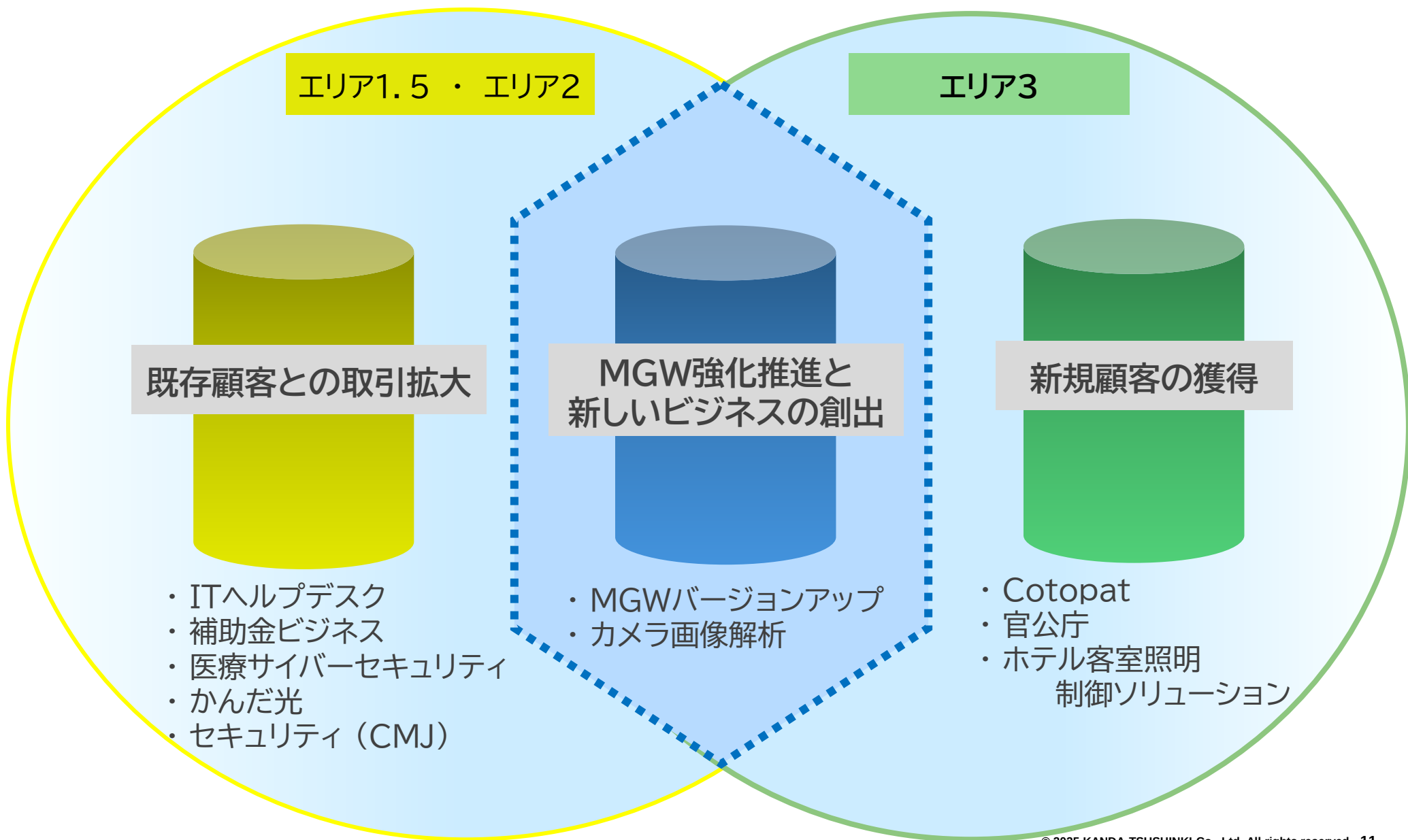
毎期継続的な収入が見込める保守料と併せた安定収益ビジネスの売上高は、前期末で10億円であり、売上に占める割合は18%である

エリア1.5、2、3の拡大

中期計画の柱:「成長」が見込めるNW事業への転換



③ 成長への戦略(目標達成への方針)



④ 前期の振返りと今期の取組み

■ 安定収益事業の拡大

1. 過去3年間の推移と計画値(含む保守料)

	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3(予)
売上高(百万円)	904	992	1,081	1,202
件数(件)	2,638	2,826	2,909	3,100
総売上に対する比率	19.0%	17.9%	18.3%	22.4%

※保守料の減少を利用料の増加でカバー

2. 取組み

- ① 2年前より取組みを始めた「かんだ光」が好調
- ② ウィルス対策ソフトなどのセキュリティライセンスの増加も寄与

3. 今後の方向性

- ① 当社コールセンターを活かした受付代行の受注拡大(ITヘルプデスク)
- ② 1年前より、ノウハウ取得に取り組んだセキュリティビジネスの拡大

④ 前期の振り返りと今期の取組み

■ エリア1.5及びエリア2の拡大

1. メニュー)ネットワークインフラの構築

サービスアプリケーションの導入

- ① Microsoft Teams連携
- ② スマホ内線「SCシリーズ」
- ③ 見守り支援システム「眠りSCAN」
- ④ 見守り介護ロボット「aams」
- ⑤ 字幕表示システム「Cotopat」
- ⑥ 子供施設向け支援システム「コドモン」
- ⑦ その他



ネットワークインフラ構築
セキュリティ対策

2. 反省及び今後の方針

- ① 病院・介護施設・官公庁のように、運営を止められない顧客に対してのサービス提供は、当社の得意分野となっている
- ② 電話工事の際に、併せてNW関連工事に取り組むことで、当社の持つ優位性を活かしている
- ③ 現在、他社との連携や社内研修等により、NWインフラ構築ノウハウを蓄積しており、今後は更に川上分野に注力していく方針である

④ 前期の振り返りと今期の取組み

■ エリア3の取組み

1. IOT制御

1) 市町村管理の学校体育館等の施錠、管理システムの提供

- ① 郊外の市町村では、体育館等の煩雑(空調コントロール、照明、施錠等)

また、地域住民や使用者に依存した管理になっている

2) 当社の強み

- ① 空調、照明、施錠等の制御からネットワーク構築を一括して対応出来るのは当社のみ
- ② 設備管理のデジタル化(遠隔管理の実現)

2. ビルOS

ディベロッパー、ゼネコンとの共同開発が進行中

⑤ 今期決算の見通し

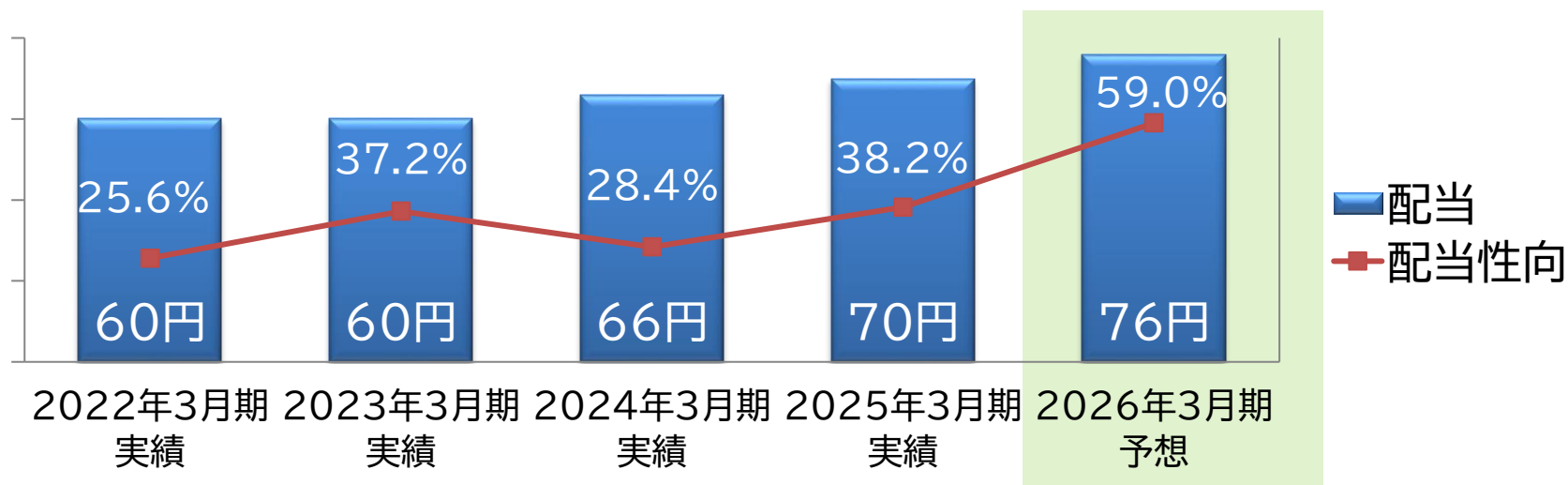
- 利用料ビジネス(ストックビジネス)は堅調に伸長するものの、工事売上(フロービジネス)は減少を見込んでおり、売上ベースでは減収となる見込み
- また、中長期的な企業価値向上の観点から、人材投資をはじめとする各種先行投資を予定しており、今期も減益となる見込み

(百万円)	2024年3月期 (87期)	2025年3月期 (88期)	2026年3月期 (89期)予想
	実績	実績	2025年5月12日 開示
売上高	7,152	7,179	6,700
売上総利益	2,182	2,220	2,010
営業利益	721	625	315
経常利益	804	712	375
当期利益	545	613	295
当期利益率	7.6%	8.5%	4.4%
ROE	9.9%	7.3%	4.8%

※記載金額の表示単位未満の端数につきましては、切り捨てて表示しております

⑥ 配当について

- 当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、収益性の向上と財務体質の強化に努めています。そのような認識のもと、当社は中期経営計画最終年度(27/3期)末までにDOE(株主資本配当率)を3.5%以上に引き上げていくことを目指しております。
- 当事業年度の配当については、中期経営計画初年度の目標数値を達成したものの、事業構造改革に伴うコスト増等を含んだ業績予測に鑑み、DOE3.1%とし、1株配当を前回公表の67円から70円予定といたしました(5/12開示済)。



ご清聴ありがとうございました。

本資料における将来の業績等に関する記載は、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づき作成しております。

今後の実際の業績は、様々な要因の変化により記載の見通しとは異なる結果となりうる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的に作成したものではありません。投資を行う際は、自己責任で行って頂きますようお願い申し上げます。

